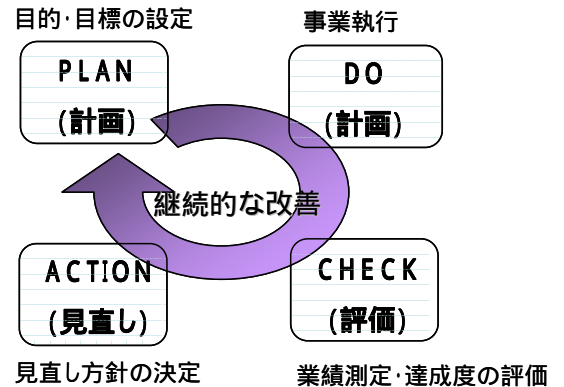


行政評価制度について

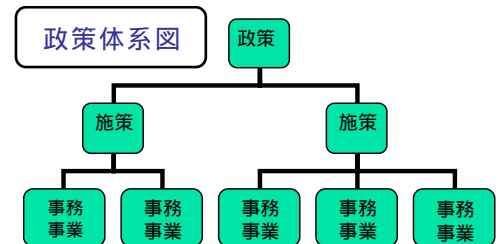
行政評価とは、「政策・施策・事務事業からなる政策体系を対象に、その成果や実績などを、事前、中間または事後において、有効性、効率性などの観点から、統一的な基準によって評価するもの」と一般的に定義されています。

行政評価の目的は、計画・予算（P：Plan）→ 執行（D：Do）で終わり、行政サービスを実施した結果の検証（C：Check）が欠けがちであった従来の行政活動に、Check（評価）を導入し、PDCA（Plan 計画→Do 実施→Check 評価→Action 見直し）という経営のマネジメント・サイクルを確立し、計画（Plan）の有効性と実施（Do）の効率性の向上を図ることにあります。

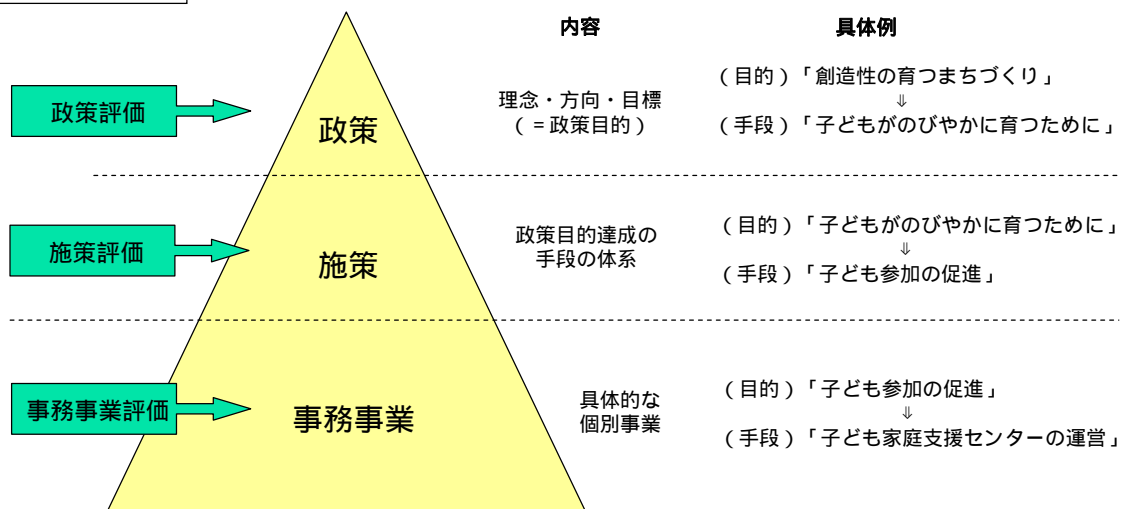


行政評価は出発点であり、行政評価結果に基づき、事務事業・施策の問題点や課題を明らかにし、継続的な改善に取り組む一連の活動を行うことが行政評価の目的です。

- 政 策 : 特定の行政課題に対応するために立案された方針であり、行政活動の大きな単位
- 施 策 : 政策を実現するための具体的な方策
- 事務事業 : 施策を実現するための個々の事務及び事業をいい、行政活動の一番小さな単位

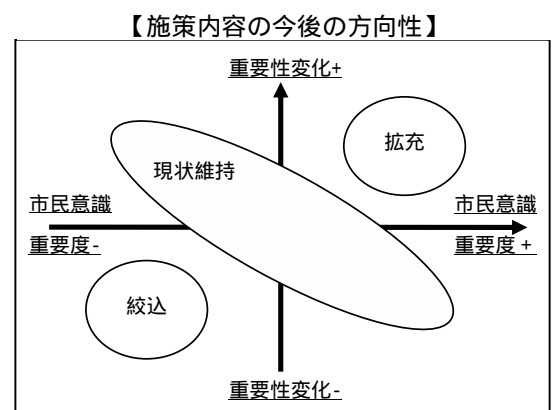
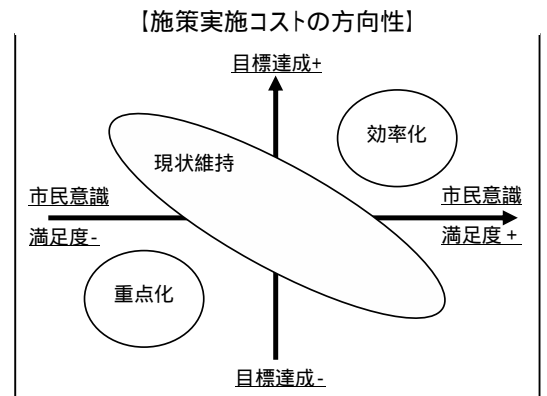
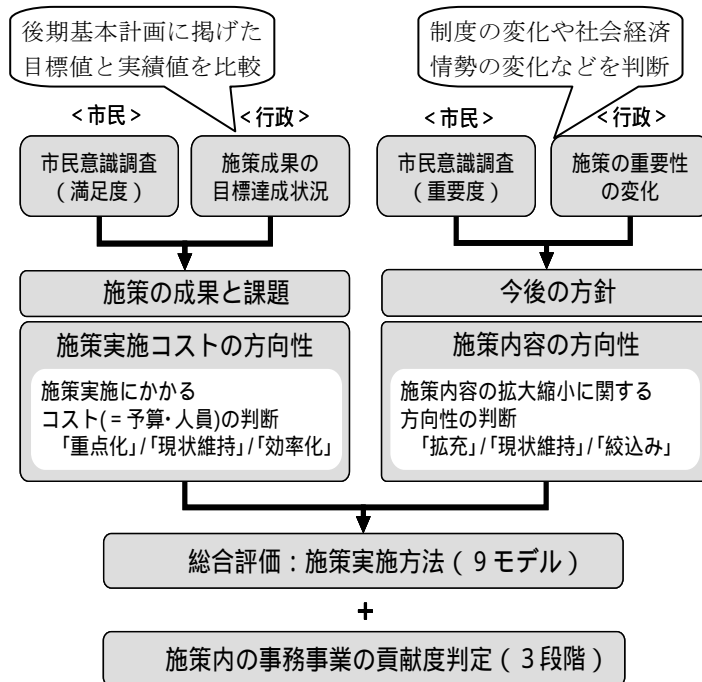


自治体の行政の階層



◇施策評価（判定方法）

評価は「①施策の成果と課題」「②今後の方針」「③」総合評価」及び「④事務事業貢献度の判定」という4つの段階で行います。



【総合評価の9モデル】

		施策実施コストの方向性		
		重点化	現状維持	効率化
施策内容の方向性	拡充	【 】コストをかけても成果を向上すべき施策領域	【 】コストは現状を維持しながら成果を向上すべき施策領域	【 】コストを抑制しながら成果を向上すべき施策領域
	現状維持	【 】必要の場合はコストをかけて成果を維持すべき施策領域	【 】コスト、成果ともに現状を維持すべき施策領域	【 】コストを抑制しながら成果を維持すべき施策領域
	絞込み	【 】必要の場合はコストをかけるが内容の絞込みをすべき施策領域	【 】内容の絞込みをすべき施策領域	【 】内容を見直すべき施策領域

※「満足度」、「重要度」の考え方

加重平均による指数化

市民意識調査における「満足度」「重要度」の数値化については、5段階で行い、それぞれに価値（＝加重）を与え、平均をとることで、それぞれの質問項目の回答結果全体の偏りを数値化しています。

回答内容	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
ポイント	+2	+1	-1	-2	0	除外